

## 基本目標 II

### 社会制度・慣行の見直しと意識改革

#### 現状と課題

現代社会においても、人々の意識や行動、社会の慣行の中には、性別による固定的な役割分担意識が今もなお残っています。性別で区分されていなくても男女の置かれている立場を反映したものがあり、男女それぞれが対等に扱われていない場合があります。価値観が多様化してきた今日、それが結果として、個人の自由な活動を阻害したり、男女の不平等感を生み出すことにつながっています。

「市民の意識・実態調査」の「社会全体における男女の地位の平等感」では、78.2%の人が男性が優遇されていると感じています。特に、10ページの「各分野における男女の地位の平等感」のデータでは、「社会通念・しきたり」において、71.4%の人が男性が優遇されていると感じています。

また、家庭内の仕事の役割分担意識について、女性がすることが多いと答えた回答が50%以上のものが半数あり、家庭における仕事の役割分担について、女性がほとんど家庭内の仕事を担っているとみられます。

男女共同参画社会の実現に向けては、家庭や地域、職場、学校などあらゆる分野で性別による役割分担意識を反映した社会制度や慣行を見直し、個人が性別にとらわれずに、その個性と能力を十分に発揮できるよう、男女それぞれが暮らしやすく住みやすい環境に変えていくことが必要です。

#### \* 社会全体における男女の地位の平等感

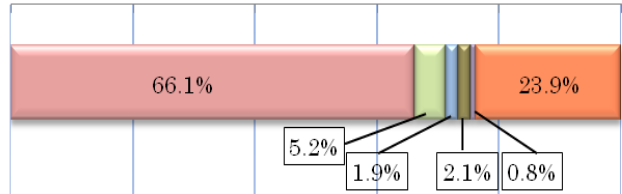


データ（平成26年度市民の意識・実態調査より）

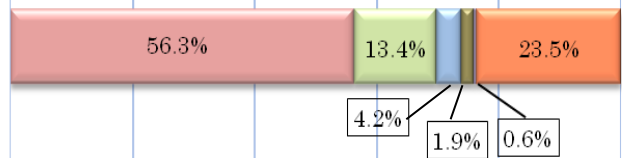
**\* 家庭内の仕事の  
役割分担**

- 妻がすることが多い
- 妻と夫が同じ程度分担
- 夫がすることが多い
- 主に親や子どもなど夫婦以外
- 該当する仕事はない
- 無回答

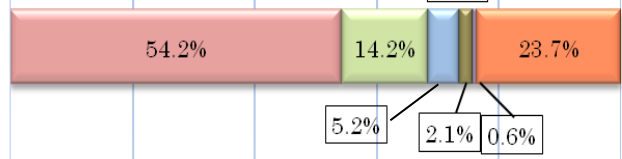
食事のしたく



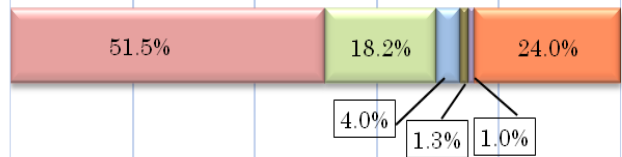
食事のかたづけ



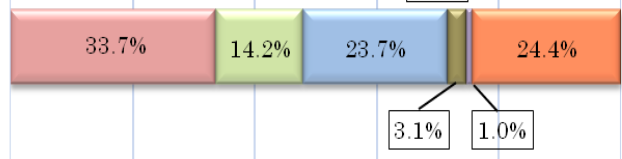
掃 除



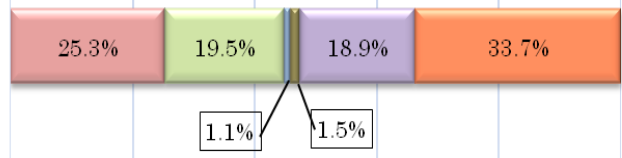
買 い 物



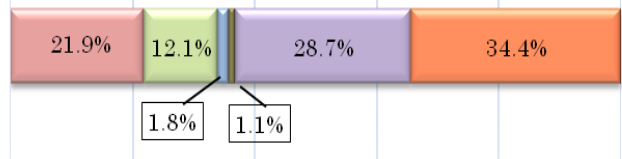
ご み 出 し



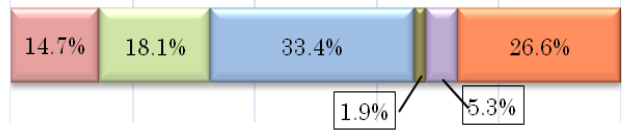
小さい子どもの  
世話やしつけ



介護の必要な高齢者・  
病人の世話



地域活動への参加  
(自治会・PTA)



データ（平成26年度市民の意識・実態調査より）

## ① 男女共同参画の視点に立った 社会制度・慣行の見直し

### ＜施策の方向性と取組＞

現行の社会制度や慣行について、「市民の意識・実態調査」（8ページ「性別役割等に関する意識」）によると「男性は、女性よりもいざというときの決断力が必要」「子育ては母親」「女性は男性よりも細やかに気配りをすることが必要」といった性別による固定的な役割分担などに肯定的な意見がまだまだ見受けられます。

家庭や地域、職場、学校などあらゆる分野で、性別役割分担などを反映した制度、慣行、しきたりなどを見直し、性別にとらわれない多様な生き方を選択できる社会が実現されるよう、幅広い情報提供に努めます。

また、市の新たな制度や施策については、男女共同参画の視点に立って策定するよう配慮します。

具体的施策	内 容 説 明	担当課
性別役割分担意識に基づく慣行等の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画の視点に立った社会制度や慣行が行われるよう広報・啓発活動を推進します。</li> <li>・行政刊行物やインターネットなどの内容・表現を男女共同参画の視点から点検し、表現の徹底を図ります。</li> <li>・男女共同参画推進のための新たな制度についての検討や研究を行います。</li> </ul>	<p>人権同和教育啓発センター</p> <p>人権同和教育啓発センター</p> <p>人権同和教育啓発センター</p>

## ② 男女共同参画推進に向けた意識づくり

### ＜施策の方向性と取組＞

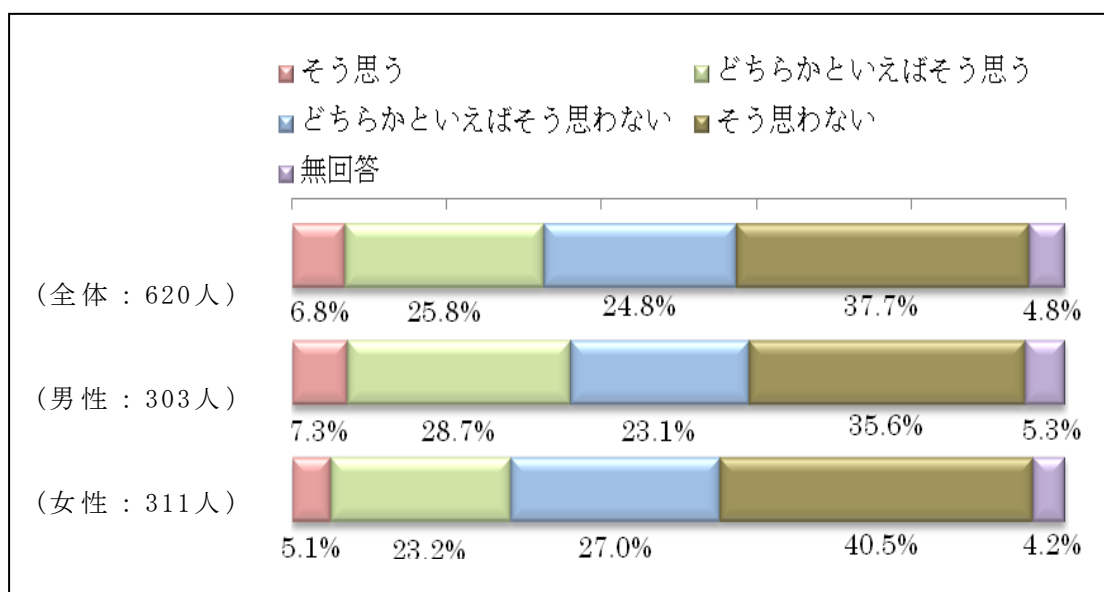
男女共同参画社会の実現を阻む大きな要因の一つとして、人々の意識の中に長い時間かけて形成された性別に基づく固定的な役割分担意識があります。「男性は仕事、女性は家庭」という役割分担意識は変化しつつあるものの、依然として残っています。家庭内での仕事を見ても多くの家庭で女性が行っている現状があります。

家事や子育て、介護など家庭内でお互いに話し合い、助け合うことが、男性の生活面における自立能力を高めるとともに、男女共同参画意識を高めるうえで非常に効果的です。

行動や慣習の中に根強く残る固定的な役割分担意識に気づき、克服していくため、各種団体と連携を図り、男女共同参画意識を向上させるための啓発活動や学習会を積極的に開催します。

### 【参考資料】

- 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである



データ（平成26年度市民の意識・実態調査より）

具体的施策	内 容 説 明	担当課
家庭・地域・職場における意識づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域での男女共同参画意識を向上させるために、情報提供を行うとともに、研修や講習会の開催に努めます。</li> <li>職場での男女共同参画意識を向上させるため、関係機関と連携をとりながら啓発活動を行います。</li> </ul>	<p>人権同和教育啓発センター</p> <p>人権同和教育啓発センター</p>
広報啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政、民間団体、女性団体、報道機関等、多様な団体と連携し、広報・啓発活動に努めます。</li> <li>男女共同参画に関する認識を深め、正しい理解の定着を図るため、インターネット等を活用し、市の条例や計画を市民にわかりやすい形で周知します。</li> </ul>	<p>人権同和教育啓発センター</p> <p>人権同和教育啓発センター</p>
相談窓口の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談内容に応じて、関係機関と連携を図ります。</li> </ul>	人権同和教育啓発センター

<代表的な数値目標>

代表的な目標	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成33年度)
男女共同参画基本法の認知度	58.4%	80%
浜田市男女共同参画推進計画の認知度	29.8%	50%
固定的性別役割分担意識に否定的な人の割合	62.5%	75%

### ③ 男女共同参画を推進する 教育・学習の充実

#### < 施策の方向性と取組 >

次代を担う子どもたちが健全に成長していくため、学校教育と家庭教育は共に重要な役割を果たしています。子どもたちが生まれながらの性別やそれぞれの特性を理解し、互いの人格を尊重しながら思いやりのある気持ちを育ていけるよう、家庭や地域、学校と連携をとりながら男女共同参画の推進を図っていきます。

日常生活や教育の現場において、必要以上に性別による固定的な役割分担を助長することのないよう家庭や地域、学校と連携をとりながら学習の充実に取り組めます。そのために学習機会の充実や住民の多様な要望に応えるよう、支援体制や推進体制の整備を図ります。

具体的施策	内 容 説 明	担当課
家庭、地域における学習・教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の学習拠点である公民館や学校など施設間の連携を図り、市民の学習グループ・サークル活動への支援体制を充実します。</li> <li>市民の学習ニーズに対応するため、講師や教材などの紹介と情報提供を行います。</li> <li>講座などの開催時間、開催場所、託児室の設置、要約筆記・手話通訳の実施などに配慮し、講座などに男女共に参加しやすい環境づくりに努めます。</li> </ul>	生涯学習課 人権同和教育室  生涯学習課 人権同和教育室  関係課
教育分野などにおける男女共同参画の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女共同参画の推進に向けて、個性の伸長を図り、自信をもって行動する子の育成に努めます。</li> <li>男女共同参画の視点に立った学校運営や諸活動の実施に取り組めるよう努めます。</li> </ul>	学校教育課  学校教育課